

令和5年度

時間外電話・LINE相談
「育児もしもしキャッチ、育児つながるLINE」
—相談情報分析結果報告—

あいち小児保健医療総合センター

あいち小児保健医療総合センター保健センターでは、平成 13 年 11 月のオープン時より、県民の育児不安を軽減し、健やかな子育てを支援することを目的に、地域の保健機関が閉庁する午後 5 時から 9 時までの間、専門相談員が育児や母子の健康についての相談に対応する時間外電話相談「育児もしもしキャッチ」を開設している。

現代のニーズに合わせた保護者への子育て支援の拡充を図るため、令和 5 年 5 月より新たに LINE を用いた相談「育児つながる LINE」を開設した。

育児もしもしキャッチ開設当初の体制は、月曜日から金曜日まで開設していたが、当センターの外来診療日の変更に伴い、平成 15 年 5 月より火曜日から土曜日に相談日を変更し、電話相談員の体制は 1 日当たり相談員 3 人で実施してきた。しかし、令和 2 年度から新型コロナウイルス感染症対策のため、週 3 日 2 人体制により実施している。

相談内容	母子健康手帳を活用する年齢層の保護者を対象に、育児や健康についての相談
開設日時	火曜日から木曜日 午後 5 時から午後 9 時まで（4 時間） （外来休診日を除く）
相談担当者	保健師、助産師、看護師等の専門相談員 電話相談 2 名、LINE 相談 2 名 合計 4 名で対応
相談体制	当センターの保健師 1 名が相談終了まで勤務する体制をとり、困難な相談への助言、連携の必要なケースを地域に繋ぐ役割等、相談員をバックアップしている。
相談記録の記載方法	相談は原則匿名としているが、相談分析のため、相談者の居住地域、相談経路を聞いている。予め設定されている「相談内容分類コード」に従い内容の分類を行っている。
相談の周知方法	各市町村での母子健康手帳交付、乳幼児健康診査や周産期の医療機関、子育て支援拠点等での案内カードの配布。また、当センターのホームページにも案内を掲載している。

【令和 5 年度の事業内容】

令和 5 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日までに寄せられた相談情報を地域別利用数や相談者、相談時間、相談内容等に注目して分析した。

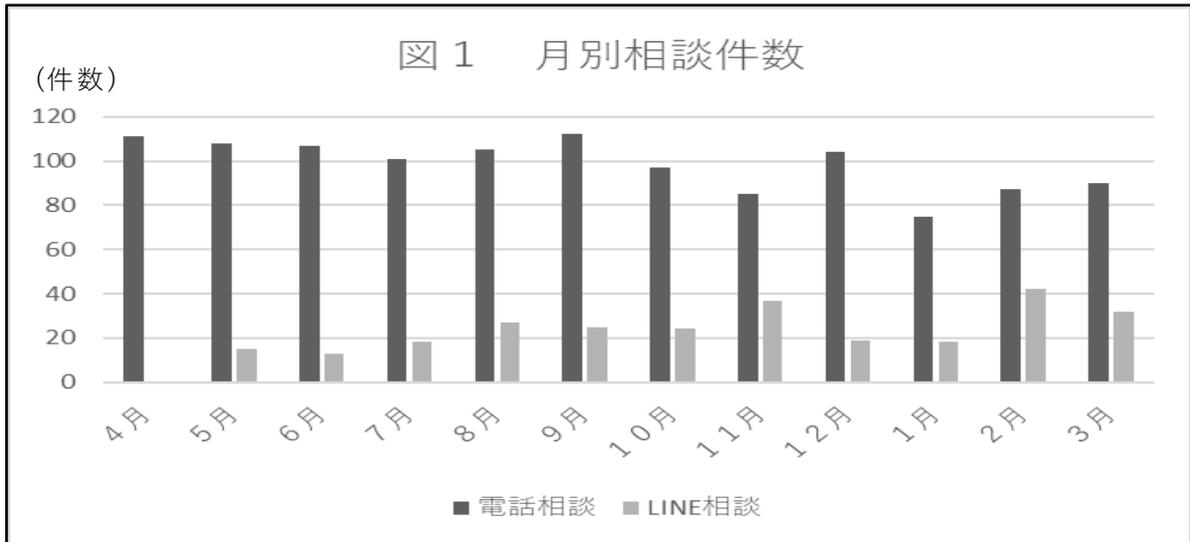
1 相談対応件数について（図 1）

（1）電話相談

相談対応件数は 1,182 件（R4 年度 1,363 件）であった。経年で見てみると、開設後の平成 14 年度以降の相談対応件数は、平成 18 年度まで増加し、その後は平準状態となり近年は減少の傾向にあった。令和 2 年度からは新型コロナウイルス感染症の影響により相談の中止や相談開設日、相談員の縮小を行ったため、大きく件数は減少している。令和 5 年度の月別相談件数では、年度替わりの 4 月が相談件数は多く、9 月までの相談件数は 100 件を超えていた。

（2）LINE 相談

相談対応件数は 270 件であった。相談開設当初の相談件数は 10 件程度であったが、LINE 相談の認知度向上に伴い、相談件数は増加し、2 月は最も多い 42 件の相談があった。



2 相談者の居住地域について

(1) 電話相談

居住地が把握できた 971 件を分析した。市町村別では、名古屋市 338 件、蟹江町 68 件、岡崎市 66 件の順に多かった。

(2) LINE相談

居住地が把握できた 269 件を分析した。市町村別では、名古屋市 79 件、刈谷市 48 件が多かった。相談件数が多かった市町村では、同じ相談者からの複数回の相談があった。

3 紹介経路について

(1) 電話相談

経路の把握できた 1,040 件を分析した。初回相談は 415 件 (39.9%) であった。初回相談の紹介経路は、市町村 (保健福祉)、母子健康手帳交付からの紹介が多く、合わせると 212 件 (20.3%) であった。「利用経験あり」は 625 件 (60.0%) であり、複数回の相談も多かった。

(2) LINE相談

270 件の相談のうち、初回相談は 170 件 (62.9%) であった。初回相談の紹介経路は「市町村」からの紹介が最も多く 73 件 (27.0%)、次いで「ホームページ」からの情報が 50 件 (18.5%) であった。「利用経験あり」は 100 件 (37.0%) であり、複数回の相談もあった。

4 相談者について

(1) 電話相談

相談者 (電話をかけてきた人) の続柄を相談対象者との関係から本人、母、父、配偶者、祖父母等、兄弟、専門職等、その他と分類しているが、母からの相談が 986 件 (83.4%) と最も多かった。

年齢区分では、30 歳代が最も多く 578 件 (63.4%)、次いで 40 歳代が 222 件 (24.4%)、20 歳代が 100 件 (11.0%) であった。

(2) LINE相談

LINE 相談でも母からの相談が最も多く、266 件 (98.5%) であった。

年齢区分では、電話相談同様 30 歳代が最も多く 179 件 (67.0%)、20 歳代が 67 件

(25.1%)であった。

5 相談対象者について (図 2)

(1) 電話相談

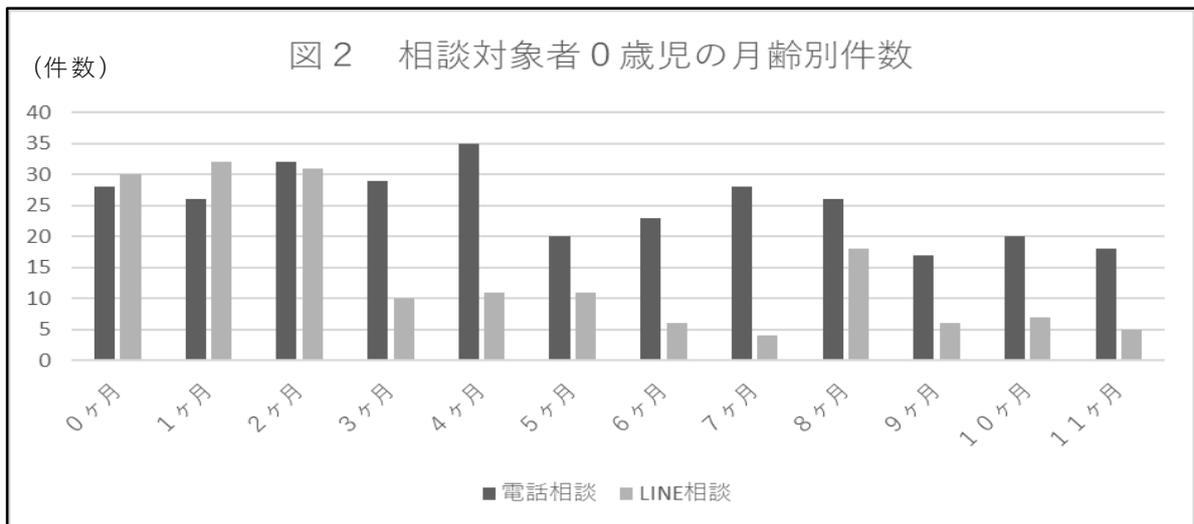
相談対象者は「子ども」が 1,021 件 (86.3%) であった。「本人」(母自身のことに
関する相談など)は 154 件 (13.0%) であった。「本人」の割合は年々増加の傾向が見
られた。

相談件数の多かった「子ども」の年齢は 1 歳が 155 件 (15.7%)、3 歳が 108 件
(10.9%)、2 歳が 107 件 (10.8%) の順に多かった。新生児期、乳児期の総相談件数
は 302 件 (30.6%) であった。

(2) LINE 相談

相談対象者は「子ども」が 266 件 (98.5%) と相談の大半を占めていた。電話相談
と比べ「本人」からの相談は 3 件と少なかった。

相談対象者を月齢別にみると、生後 1 か月が 32 件 (12.1%)、2 か月が 31 件 (11.7%)、
新生児期 (0 ヶ月) が 30 件 (11.4%) と産院退院後から多くの市町村で実施されてい
る 3、4 か月児健康診査前の相談がとても多かった。



6 相談所要時間・曜日について

(1) 所要時間について

電話相談では、「30 分以内」の相談が 1,058 件 (89.5%)、うち「10 分以内」が 462
件 (39.0%) と比較的短時間で相談が完了することが多かったに対して、LINE 相談で
は、相談者が家事や育児で返信に時間を要することも多く、「30 分以内」の相談は 82
件 (30.3%) と少なく、一方「30 分以上」の相談が 188 件 (69.6%) と 1 件当たりの
相談所要時間が長かった。

(2) 曜日について

電話相談、LINE 相談どちらも水曜日の相談が最も多く、電話相談 430 件 (36.3%)、
LINE 相談 100 件 (37.0%) であった。かかりつけクリニックの休診日や月曜日からの
育児の疲労感の蓄積が影響していることも考えられる。

7 相談内容について

(1) 電話相談

電話相談の内容は、「育児相談」が 868 件 (73.4%) と大半を占め、次いで「事故相

談」が 134 件（11.3%）であった。令和 4 年度と比較すると「育児相談」の割合は減少していた。

「育児相談」868 件の内訳は「こどもの病気と手当て」が 365 件（42.1%）、次いで「家族・人間関係」が 225 件（25.9%）、「教育」が 61 件（7.0%）の順に多かった。

（2）LINE 相談

LINE 相談も「育児相談」が最も多く 244 件（90.4%）であった。

「育児相談」244 件の内訳は「こどもの病気と手当て」が 68 件（27.9%）、次いで、「日常生活」が 47 件（19.3%）、「授乳」が 39 件（16.0%）の順に多かった。

電話相談と LINE 相談を比較すると「こどもの病気と手当て」に関する相談割合は電話相談の方が多く、その一方で“睡眠”や“泣き”に関する「日常生活」や「授乳」に関する相談割合は LINE 相談の方が多かった。

また、LINE 相談では、画像や動画を添付した相談 21 件あった。画像の添付のあった相談は、発赤、発疹等の皮膚に関する相談と便の性状に関する相談が多かった。動画での相談は、呼吸状態の相談や離乳食の食べさせ方についての相談があった。

8 相談例について

（1）「こどもの病気、手当て」について

子どもの症状、病状への対応についてのアドバイス、受診の要否についての相談が多く、熱や鼻汁等のかぜ症状、下痢、嘔吐等の消化器症状、発疹等の皮膚症状の相談があった。LINE 相談では、発疹等の皮膚症状の相談の際に画像データを添付して症状を画像で確認しながら相談に応じた。

<電話>

- ・ 6 か月児。昨日発熱 38.0℃あり。受診し薬をもらってある。本日 11 時に授乳後、嘔吐あり。薬飲ませたすぐ後だったので薬も出てしまったかも。15 時の授乳、その後入浴させた後に嘔吐した。今は熱が 38℃あるが機嫌は悪くはない。今から受診すべきか。
- ・ 3 歳児。41℃近い発熱あり辛そうにしている。発熱して 3 日目、昨日受診でコロナ・インフル（－）。解熱剤を使用し昼間は一旦解熱したが 3 時間程度ですぐに上がってきた。あまりに急に上昇しているので痙攣を心配する。水分は少しずつ取れていて排尿はある。受診したいがどこかないか。
- ・ 2 歳児。アデノウイルス感染。今朝 9 時に受診した。発熱 40℃まで上がった。本日は排便 4 回あり、緑色の液体様。咳き込んで 2 度嘔吐あり。水分は摂れる。今、空腹を訴えるが何か食べさせて良いか。
- ・ 1 歳児。午後から何も食べておらず嘔吐が続く。水分は摂れるが、嘔吐する。熱はないが、軟便が続いている。受診をした方が良いのか。
- ・ 6 か月児。離乳食で初めて素麺を食べさせた。朝 1 回で他は粥。側頭部に発赤が見られるが小麦アレルギーか。手を持って行くようなことはないし機嫌も良い。初めてで量も少ししか食べさせてはいないので小麦アレルギーなのではないかと心配。受診はどうか。
- ・ 1 歳児。足の裏と甲の部分の部分を痛がって泣いている。床に立たせるとすごく泣く。見た目では左右差もなくどうしたらよいか分からない。受診は何科に受診したら良いのか。以前、小児科受診した際には分からないと言われたらいまわしになり嫌な思いをした。

<LINE>

- ・ 2歳児。37.5～38.0℃の発熱あり。本日で3日目だが今日は解熱している。ネット検索したらプール熱ではないかと思うがその症状である目に充血は見られず、目のウルウル感はある。このまま様子を見て良いのか。
- ・ 4か月児。2日前に夫がコロナ陽性、本児も陽性、かかりつけ医より内服薬の処方あったが熱(38.9℃)あってもミルクは飲めてぐったり感もないので内服はさせていない。しかし、抱っこはしていないと泣く。本日は朝から大泉門辺りが腫れているようで心配。様子を見て良いのか。
- ・ 3か月児のラクトフェリンの消化管アレルギーがあり母乳があまり飲めない子。ミルクを最近あまり飲めなくなっていて心配。どうしたらよいか。ミルクの銘柄は指示があり変更できない。
- ・ 2日前に黄色ブドウ球菌熱傷性皮膚炎症候群と診断あり。本日昼間から夕方にかけて発赤の拡大あり受診を迷う。内服と軟膏の処方あり。受診時に発熱はなかったので入院はせず、2日後の再受診でOKと。現在も発熱はなく母乳は飲める。

受診するべきかを問う相談や、どう行動すべきか意思決定をするための相談が多かった。また、「かかりつけ医を受診し、内服薬や坐薬をもらってあるが不安。」といった電話も少なくない。保護者が現状をどう捉えているかをよく聴き、今できていることを認めることも重要である。家庭看護力の低下が指摘されている中、発熱の生理的意味から、「様子を見る」とはどういうことか、受診に切り替えるタイミングまでを十分に説明する等、保護者をエンパワメントできる相談となるよう心掛けている。

(2)「家族・人間関係」について

「育児不安」が155件で最も多く、次いで「家族内の人間関係」76件、「近所との付き合い方」7件であった。

<電話>

- ・ 2歳6か月児。発熱と咳上げで受診したが長時間病院にいたことで不安になっている。インフルエンザが流行している昨今、長時間病院にいたことは間違っていたのではないかとモヤモヤする。
- ・ 2歳6か月児。毎日、時間に追われて子供がして欲しいことが全部してあげられない。全て中途半端になってしまっている感じがする。子どもに小言を言ってしまうたりしてダメだなと感じているが、これでもよいのか。祖父母は遠方にて、実母に相談しても口は出されても手伝ってはくれない。
- ・ 6か月児。家で育児していて気持ちがモヤモヤしている。児は人見知りがあって預けられない。二人きりでいると後追いで泣く。支援センターに出かけても相談がしにくい。人と話すことも辛い。協力者は夫のみ。保育園へ入れたいが入れられない。今後2～3年このような育児が続くと思うと辛くなる。
- ・ 1歳6か月児。母自身がコロナ罹患、こどもは実家に預かって貰った。子は子でヘルパンギーナやRS感染にかかっていたようだが元気になった。子どもが戻ってきて面倒を見ているが自分はまだ症状が改善せず辛い。パニックを起こしてしまうので生きていく自信もなくなる。どこに相談しても様子を見てと言われるだけ。
- ・ 1歳児。義母と同居で子育てについて色々と言出しされる。時代のギャップがありストレスになる。

<LINE>

- ・ 3歳児。「ママがいい」と言って朝の支度の時にまとわりつきイライラする。保育園でも癩癩がひどく髪の毛を引っ張って足の甲を皮膚がめくれるほど擦り合わせてしまう。自分が疲れや体調不良でイライラしてしまい子どもと向き合う気持ちになれない。
- ・ 5か月児。母自身、精神疾患の治療中。保健センターから義母だけでも子どもを連れて支援センターへ出かけてかまわないと言われたが義母は「母が行くべき」という考え方が強く、自分が頑張るしかないのかと辛い。
- ・ 3歳児と3か月児。自宅保育しているがイライラしてしまい3歳児の気持ちを受け止めきれない。支援センター保育士に相談しようとも思うが自身が情緒不安定で泣いてしまいそうで躊躇う。

「育児不安」では、保護者自身の持病や感染症に罹患して体調不良の中、子育てすることへの負担感からくる不安が聞かれた。コロナ禍で祖父母との交流機会も少なくなっていたため相談件数としては多くなかったが、祖父母との育児観・子育て観の違いから、不安を抱えている家庭もみられた。また、漠然とした不安を訴える母親も多く、とにかく「話を聞いて欲しい」と繰り返し相談する母も見られた。

「家族内の人間関係」では、「自分は頑張っているが夫が育児に非協力的で疲れた」が最も多い。これら「家族・人間関係」の相談では、175件が「利用経験あり」であり、繰り返し相談する利用者が多いことがわかる。また、相談の開設当初、相談内容の約5%弱の割合であったのに対し、令和5年度では電話相談で25.9%まで増加しており、年々増加傾向にある。

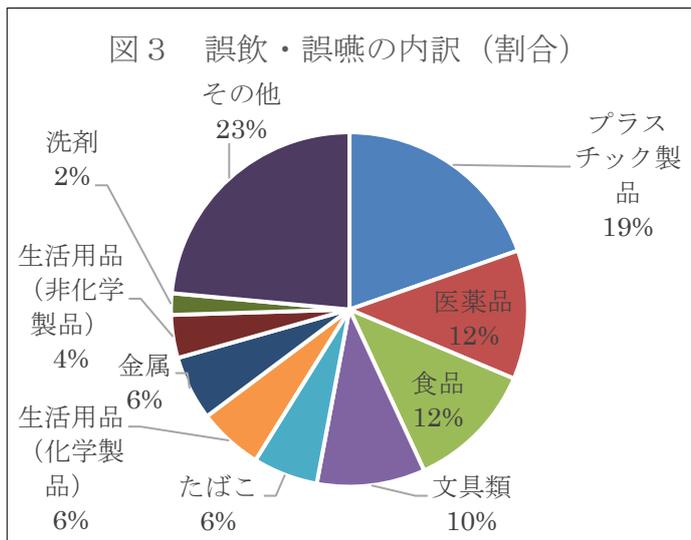
(3) 「事故相談」について (図3)

事故相談は、電話相談134件(11.3%)、LINE相談13件(4.8%)であった。

事故相談は緊急性を伴うことも多く、電話での相談件数が多い傾向であった。事故相談の全相談内容を分析すると「誤飲・誤嚥」が51件(34.7%)と最も多く、次いで「転落」が39件(26.5%)であった。

「誤飲・誤嚥」について、誤飲をしてしまった児の年齢は大半が1歳前後の年齢であった。

相談があった「誤飲・誤嚥」の要因は、玩具や包装紙のプラスチック製品が最も多く、次いで医薬品の誤飲相談が多かった。医薬品の誤飲では、児に対して処方された塗り薬を誤飲してしまったという相談が大半であったが、父親の持病の薬を誤飲してしまった相談もあった。また、両親の加熱式たばこを誤飲してしま



しまった相談も3件あった。誤飲・誤嚥相談では内容により、緊急性が異なるため、誤飲した物や児の様子を確認し対処方法の助言を行った。

事故相談では、状況を的確に捉えて、冷静な対応を促すだけでなく、保護者の事故に対する焦りや自責の気持ちに寄り添って助言を行った。

<電話>

- ・ 1歳3か月児。14時頃にゼムクリップを1個飲み込んだかもしれない。そういった場合、何か対処することはあるか。かかりつけ医に電話したら「心配なら救急外来を受診するように」と指示があった。
- ・ 1歳10か月児。父親の薬（トラネキサム酸錠 250mg）の1/3程度かじってしまった。
- ・ 9か月児。口の中を見たらタバコのフィルター部分があり慌てて出した。

(4) 「日常生活」について

「睡眠」・「泣き」についての相談では、対処方法や解決方法を求める相談が多く、保護者は泣き止まない、寝ないことの不安だけでなく、育児に対する疲労感もうかがえる。

<LINE>

- ・ 生後2週間の児。一通りやっても泣いていてなかなか寝てくれないことが日に2,3回ある。そういった時は寝かせるのに2~3時間かかってしまう。良い方法はないか。
- ・ 生後15日目の児。昼夜問わず泣く。どの位放置してよいか。実家に居るがあまり祖父母には頼っていない。
- ・ 2か月児。昨日からミルクの銘柄を変更した。普段よりもよく寝ていて心配。
- ・ 1か月半児。毎日夜泣きをして21時から3時の間寝てくれない。何をしても泣き止まずおしゃぶりで対応しているが癖にならないかと気になる。何か対策はあるか。

(5) 「授乳」について

「授乳」に関する相談は、LINEでの相談割合が高く、授乳間隔やミルクの量と体重増加についての相談が多かった。また、母親自身の持病に対する内服薬、食事を含めた摂取物の母乳移行への不安の相談も寄せられた。

<LINE>

- ・ 新生児8日目。授乳時間が3時間となったので起こして飲ませるが、途中で入眠してしまう。授乳間隔は守った方が良いのか。母乳は漏れ出すので十分出ていると思う。
- ・ 生後18日目の児。授乳中の母、昼食に鉄板を使用した食事をした際に、鉄板の錆のようなものを一緒に食べた。その後に授乳したが影響はあるか。古い鉄板であったため衛生面が不安になった。
- ・ 1か月児。授乳中の母。甘味食品にアルコール含有とあり。食べた後に気がついて心配になった。また、4日前にはちみつを触った後に手洗いし、乳首をマッサージしてから授乳したが、飲ませた後にはまだハチミツの匂いがしたが大丈夫だったか。
- ・ 生後16日目の児。昨日より母乳授乳の際に口から溢れてしまったり、途中で咳き込んで泣いてしまったりと上手く飲ませられない。すぐに欲しがるので与えたいが、苦しそう見える場合どうしたらよいか。
- ・ 生後9日目の児、母乳授乳5~6分、吸ったらウトウトしたり、欲しがらなくなる。授乳は2時間間隔。体重増加は問題ない。母自身が時折気分の落ち込みがある。授乳後に吃逆ある。暫くすると治まるが、頻度が高く心配。
- ・ 今朝から咽頭痛あり耳鼻科受診。授乳中である旨伝えてトラネキサム酸カプセ

ル処方あり。しかし、添付書には授乳時には注意の文字があり心配になった。

(6) 「教育」について

相談内容は、子どもの発達特性から授業や学校行事への不安の相談や就学、進学に関する相談内容が多かった。

「教育」に関する相談のうち87%が「利用経験あり」であり、繰り返し相談する利用者が多いことがわかる。

<電話>

- ・ 6歳児。3月に卒園する。4月からどうしたらよいか不安。学区の公立小学校を見学したが子どもが行きたがらない。私立校は学費が高く、また、母の送迎も必要になる。夫は公立校でよいと言っているが子どもは行く気がない。
- ・ 5歳児。発達支援センターに行っている。来年度小学校就学するため学校側から面接に来る。その申し込みをしようかと迷うが、夫は「そんなものは受けるな」という。自分としては本児のために何がよいのかよくわからず迷う。
- ・ 中3年生。子どもの進路について悩む。12月の懇談会で進路決定する。本人の気持ちは揺らいでいないが母自身が悩む。まわりからは「今更、不安にさせないことが大事」と言われる。

(7) 「虐待・虐待予防」について

「虐待・虐待予防」の相談件数は5件(0.4%)であった。経年的な相談件数に大きな増減はなかった。相談の多くは、母親の感情(怒り)のコントロールについての相談であり、アンガーマネジメント等の助言を行った。また、必要なケースについては市町村保健センターへの情報提供も行った。

<電話>

- ・ 2歳児。イヤイヤ期の対応に困っている。今日はこちらも忍耐ができず大声で怒ってしまったり、叩き返してしまった。「ママ、嫌い」と言われ対応が悪かったと思う。夫も怒ったため子どもは泣いていた。
- ・ 2歳7か月児と1歳7か月児。長子のことがかわいく思えず虐待しそうな自分が怖い。言うことを聞かない。車から降りずにクラクションを鳴らしたり、妹の指を噛んだりする。対応方法を聞いても受け入れられず。どうしたらよいか。

原則、匿名相談ではあるが、気になるケースについては、相談対象が明確でなくともできる限りの情報を用いて地域連携を行っている。

9 相談結果について

電話相談・LINE相談ともに原則匿名で1回の相談での終了が前提となっているため、利用経験がある場合も継続支援とはしておらず、1回で終了としている。

10 まとめ

電話相談では、対応件数は平成18年度以降減少傾向にある。令和2年度からは新型コロナウイルス感染症対策のため相談の中止や相談員の縮小を余儀なくされ、相談対応件数は減少した。一方、相談員が相談対応中のため、相談電話に対応できなかった未着信数は約400件あり、ニーズに応えきれない状況もある。

『小児救急電話相談(＃8000)』の住民への浸透に伴い、「子どもの病気・手当」の割合は、経年的に減少傾向が続いていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大以降、

感染不安から発熱等の風邪症状の相談割合の増加がみられている。また、事故相談の割合も高く、受診の必要性を問うような緊急性を要する相談が多かった。

その一方で「話を聞いて欲しい。」と共感や傾聴を求められる相談も多く、『育児もしもしキャッチ』は育児や人間関係で困っている親の不安や心配、うまくいかない苛立ちを受け止める窓口としても大きな役割を担っている。

LINE 相談では、新生児期から生後 2 ヶ月の相談件数が多く、産科退院直後から市町村の多くで実施されている 3, 4 か月児健康診査までの育児相談の需要が確認された。相談者の年齢も電話相談と比較し、20 歳代の若年層が多い傾向であった。

また、LINE の特性上、画像や動画を用いた相談も可能なため、言語化が難しい症状や性状についての相談では、状況を正確に確認することができ、適切な助言を行うことが可能であった。

電話相談、LINE 相談ともに相談者や相談内容で適性が異なるため、相談者が適当な相談方法を選択できる双方の相談体制の有益性を感じる。

本事業は平成 13 年 11 月のセンター開設と同時に開始され、関係機関からも高い認知度と期待を受けて運営されてきた。社会の育児問題が反映されており、ニーズ把握に役立てることができる貴重な機会でもあり、令和 5 年 5 月から現代の子育て世代のニーズにあった相談体制として L I N E 相談を開始した。今後も県内の小児保健の中核的支援機能を有する当センターの保健事業のひとつとして、相談体制を継続するとともに、相談結果を分析し、地域の母子保健関係機関へ還元していく。

表1 市町村別の利用状況

市町村	電話 相談件数	LINE 相談件数	R4 出生数
名古屋市	338	79	16,325
豊橋市	36	2	2,325
岡崎市	66	11	2,772
一宮市	30	3	2,296
瀬戸市	8	1	691
半田市	11	1	736
春日井市	28	13	2,105
豊川市	30	9	1,286
津島市	5	0	273
碧南市	7	1	470
刈谷市	32	48	1,308
豊田市	19	7	2,748
安城市	19	17	1,411
西尾市	24	5	995
蒲郡市	2	2	423
犬山市	4	0	357
常滑市	6	3	336
江南市	8	1	531
小牧市	9	3	878
稲沢市	14	3	807
新城市	7	0	152
東海市	28	6	883
大府市	22	4	800
知多市	7	7	479
知立市	13	7	576
尾張旭市	5	1	565
高浜市	5	1	359
岩倉市	4	1	376
豊明市	3	2	475

市町村	電話 相談件数	LINE 相談件数	R4 出生数
日進市	7	1	832
田原市	6	0	334
愛西市	1	0	302
清須市	15	3	617
北名古屋市	18	2	725
弥富市	2	1	306
みよし市	14	5	478
あま市	7	1	588
長久手市	11	0	583
東郷町	8	0	295
豊山町	0	0	113
大口町	2	2	190
扶桑町	2	1	247
大治町	2	0	254
蟹江町	68	0	246
飛島村	0	0	15
阿久比町	1	1	178
東浦町	4	3	343
南知多町	0	0	54
美浜町	0	1	74
武豊町	2	5	307
幸田町	4	3	311
設楽町	0	0	11
東栄町	0	0	10
豊根村	0	0	1
不明	211	1	
県外	7	2	
総計	1182	270	

表2 曜日別状況

曜日	電話相談		LINE相談	
	件数	割合	件数	割合
火曜日	354	29.9%	81	30.0%
水曜日	430	36.4%	100	37.0%
木曜日	398	33.7%	89	33.0%
総計	1,182	100.0%	270	100.0%

表3 相談所要時間

相談時間	電話相談		LINE相談	
	件数	割合	件数	割合
10分未満	462	39.1%	4	1.5%
10分～30分	596	50.4%	78	28.9%
31～60分	117	9.9%	105	38.9%
60分以上	7	0.6%	83	30.7%
総計	1,182	100.0%	270	100.0%

表4 年度別経路

(1) 電話相談

経路	利用経験あり	市町村 (保健福祉)	母子健康 手帳	医療機関	保健所	友人・ 知人	ホーム ページ	子育て 支援 センター	院内	幼稚園・ 保育園等	学校	児童相談 センター	その他	不明	総計
31年度	1,849	344	323	47	9	16	282	7	2	2	1	2	8	260	3,152
	(58.7)	(10.9)	(10.2)	(1.5)	(0.3)	(0.5)	(8.9)	(0.2)	(0.1)	(0.1)	(0.0)	(0.1)	(0.3)	(8.2)	(100.0)
R2年度	598	133	118	11	8	5	132	1	1	1	1	0	7	100	1,116
	(53.6)	(11.9)	(10.6)	(1.0)	(0.7)	(0.4)	(11.8)	(0.1)	(0.1)	(0.1)	(0.1)	(0.0)	(0.6)	(9.0)	(100.0)
R3年度	721	148	133	22	12	3	173	4	2	0	1	0	13	116	1,348
	(53.5)	(11.0)	(9.9)	(1.6)	(0.9)	(0.2)	(12.8)	(0.3)	(0.1)	(0.0)	(0.1)	(0.0)	(1.0)	(8.6)	(100.0)
R4年度	757	136	139	22	3	3	166	4	2	0	0	1	5	125	1,363
	(64.0)	(11.5)	(11.8)	(1.9)	(0.3)	(0.3)	(14.0)	(0.3)	(0.2)	(0.0)	(0.0)	(0.1)	(0.4)	(10.6)	(115.3)
R5年度	625	107	105	22	3	6	158	1	4	1	0	0	8	142	1,182
	(52.9)	(9.1)	(8.9)	(1.9)	(0.3)	(0.5)	(13.4)	(0.1)	(0.3)	(0.1)	(0.0)	(0.0)	(0.7)	(12.0)	(100.0)

(2) LINE相談

経路	利用経験あり	市町村	医療機関	知人・ 友人	ホーム ページ	その他	不明	総計
R5年度	100	73	34	1	50	12	0	270
	(37.0)	(27.0)	(12.6)	(0.4)	(18.5)	(4.4)	(0.0)	(100.0)

表5 相談者続柄

続柄	電話相談		LINE相談	
	件数	割合	件数	割合
母	986	83.4%	266	98.5%
父	34	2.9%	2	0.7%
本人	154	13.0%	1	0.4%
配偶者	2	0.2%	0	0.0%
祖父母等	4	0.3%	1	0.4%
きょうだい	1	0.1%	0	0.0%
不明	1	0.1%	0	0.0%
総計	1,182	100.0%	270	100.0%

表6 相談者年齢

年代	電話相談		LINE相談	
	件数	割合	件数	割合
10歳代	1	0.1%	0	0.0%
20歳代	100	11.0%	67	25.1%
30歳代	578	63.4%	179	67.0%
40歳代	222	24.4%	19	7.1%
50歳代	8	0.9%	1	0.4%
60歳代	1	0.1%	1	0.4%
70歳代	1	0.1%	0	0.0%
総計	911	100.0%	267	100.0%

表7 相談対象者

対象者	電話相談		LINE相談	
	件数	割合	件数	割合
子ども	1,021	86.4%	266	98.5%
本人	154	13.0%	3	1.1%
孫・甥・姪等	4	0.3%	1	0.4%
配偶者	2	0.2%	0	0.0%
きょうだい	1	0.1%	0	0.0%
患者等	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%
不明	0	0.0%	0	0.0%
総計	1,182	100.0%	270	100.0%

表8 相談対象者(子ども)の年齢

年齢	電話相談		LINE相談	
	件数	割合	件数	割合
0歳	302	29.4%	171	64.0%
1歳	155	15.1%	24	9.0%
2歳	107	10.4%	25	9.4%
3歳	108	10.5%	17	6.4%
4歳	61	5.9%	11	4.1%
5歳	62	6.0%	6	2.2%
6歳	20	1.9%	2	0.7%
7歳	21	2.0%	1	0.4%
8歳	34	3.3%	3	1.1%
9歳	24	2.3%	0	0.0%
10歳	12	1.2%	1	0.4%
11歳	12	1.2%	0	0.0%
12歳	20	1.9%	1	0.4%
13歳	2	0.2%	1	0.4%
14歳	19	1.9%	1	0.4%
15歳	22	2.1%	0	0.0%
16歳	5	0.5%	0	0.0%
17歳	1	0.1%	0	0.0%
18歳	1	0.1%	0	0.0%
不明	38	3.7%	3	1.1%
総計	1,026	100.0%	267	100.0%

表9 相談内容分類

相談内容	電話相談		LINE相談	
	件数	割合	件数	割合
育児相談	868	73.4%	244	90.4%
事故相談	134	11.3%	13	4.8%
アレルギー	1	0.1%	0	0.0%
家族の体と心	27	2.3%	1	0.4%
虐待・虐待予防	5	0.4%	0	0.0%
思春期相談	17	1.4%	2	0.7%
母性相談	9	0.8%	3	1.1%
予防接種	9	0.8%	6	2.2%
その他	112	9.5%	1	0.4%
総計	1,182	100.0%	270	100.0%

表10 育児相談内容分類

相談内容	電話相談		LINE相談	
	件数	割合	件数	割合
こどもの病気と手当て	365	42.1%	68	27.9%
家族・人間関係	225	25.9%	29	11.9%
日常生活	48	5.5%	47	19.3%
教育	61	7.0%	3	1.2%
発育・発達	28	3.2%	24	9.8%
授乳	42	4.8%	39	16.0%
食事に関すること	33	3.8%	16	6.6%
性格・行動・社会性	39	4.5%	18	7.4%
社会資源	8	0.9%	0	0.0%
その他	19	2.2%	0	0.0%
総計	868	100.0%	244	100.0%

編集	あいち小児保健医療総合センター 保健センター保健室 〒474-8710 大府市森岡町七丁目 426 番地 TEL 0562-43-0500 内線 4041
発行	令和6年10月